

マス・コミュニケーション論Ⅱ

科目ナンバリング SOC-106
選択 2単位

木下 浩一

1. 授業の概要(ねらい)

われわれは日々、さまざまなコミュニケーションを行なっています。近年増加しているのは、SNSを介したコミュニケーションです。一方でマス、つまり不特定多数によるコミュニケーションは、減少傾向にあります。

しかしながら、世の中で何が起きているのかを知るのは、主にマス・メディアを通じてです。みなさんもマスの一員です。みなさんが住む「社会」や「世界」を、マス・コミュニケーションの観点から捉え直してみましょう。

本講では一部、ペアワークなどを行います。他の参加者と意見や考えを共有しましょう。

*新型コロナ・ウイルスの状況によって、内容を変更する場合があります。コロナ禍が維持・拡大の場合、コロナ関連のマス・コミュニケーション状況を論じます。

*本講義はオンラインでの開講となる予定です。したがって、対面を前提とした形式や内容から適宜変更の可能性があります。例えば、受講生間のコミュニケーションであるペアワークなどは、LMS上の「掲示板」を活用します。

2. 授業の到達目標

- 1) メディアごとに、マス・コミュニケーションの良い点や悪い点、あるいは問題点や課題を挙げられる。
- 2) マス・コミュニケーション研究における概念や理論を用いて、具体的な事例について考えることができる。

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート(60%)と、LMS上の「掲示板」における課題提出(40%)をもって評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

*教科書は特に指定しない。

参考文献

吉見俊哉 『メディア文化論:メディアを学ぶ人のための15話』 有斐閣、2012年

佐藤卓己 『現代メディア史』 岩波書店、2018年

5. 準備学習の内容

▼授業では新聞記事を多用します。新聞記事や授業の内容から、1)興味関心を広げ、2)関心を絞り込み、3)特定の事例について調べ、4)再び受講してください。

6. その他履修上の注意事項

▼「マス・コミュニケーション論Ⅰ」(前期)を履修していることが望ましい。

▼アクチュアルな時事問題を積極的に取り入れていきます(例:新型コロナ・ウイルス、京都アニメーション放火殺人事件、「教師問いじめ問題」)。そのため、シラバス上の授業内容と相前後する場合があります。

▼学びは「やる気」がすべてです。「興味」から出発し「深める」、このすべての過程に、やる気は欠かせません。コツは「楽しむ」こと。楽しむことができれば、自ずとやる気がわき、継続できます。ただし、ここでいう「楽しみ」は、遊びのそれとは違います。大学ならではの知的な楽しみを共有しましょう。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス、イントロダクション
- 【第2回】 メディアとイベント①:オリンピック
*第2回以降、新型コロナ・ウイルス関連を多く採り上げる可能性がある。
- 【第3回】 メディアとイベント②:新聞と高校野球
- 【第4回】 テレビと教育①:クイズ番組
- 【第5回】 テレビと教育②:ワイドショー
- 【第6回】 テレビの吹き替えをめぐるマス・コミュニケーション:声優の多様化
- 【第7回】 質疑応答とペアワーク
- 【第8回】 前半のまとめと中間試験
- 【第9回】 中間試験のフィードバック
- 【第10回】 カルチュラル・スタディーズや心理学:マス・コミュニケーション研究の関連領域
- 【第11回】 SNSとマス・コミュニケーション
- 【第12回】 マス・コミュニケーションは今後どうなっていくのか①:オールドメディア(新聞・テレビ)の将来
- 【第13回】 マス・コミュニケーションは今後どうなっていくのか②:動画SNS(YouTubeなど)の興隆
- 【第14回】 質疑応答とペアワーク
- 【第15回】 まとめと期末試験